

あらゆる面で環境に配慮したものづくりの徹底

環境負荷の低減

■ 水質汚濁対策

当社グループでは、生産工程の改善や再生水の利用によって節水に取り組んでいます。また、生産工程からの排水の特性に適した処理システムで浄化することで公共用水域への汚濁負荷物質の排出抑制を図っています。

当社の各事業所では、各生産プロセスからの排水を、凝集沈殿、砂ろ過などにより浄化した後、再び所内で循環利用しており、約96%の水を再利用しています。

■ 大気汚染対策

生産工程などで発生するSO_x(硫黄酸化物)については、省エネルギー化による燃料の削減や低硫黄燃料の使用、都市ガスへの燃料転換などにより発生を抑制するとともに、脱硫などの排ガス対策を行っています。一方、NO_x(窒素酸化物)については、低NO_x燃焼技術の導入や省エネルギー対策により排出量の抑制に努めています。

資源循環対策

限りある資源を有効に活用するために、廃棄物の発生抑制に取り組むとともに、生産工程から得られる副産物などの付加価値を高めたり、新規利用用途の開発・導入により、積極的にリサイクルを進めています。

当社グループでは、2019年度に総計412万トンの副産物が発生し、18万トンを最終埋立処分しました。副産物の主な発生源である当社鉄鋼事業部門では、歩留向上や副原料の使用量の削減を積極的に進めた結果、主な副産物であるスラグ、ガスト、スラッジの再資源化率は98.7%となりました。今後も鉄鋼業界で定める自主行動計画(最終埋立処分量あるいは再資源化に関する数値目標)に基づく新たな目標(2020年度時点で35万トン)達成に向けて取り組んでいきます。

なお、当社グループ(国内)の再資源化率は95.0%となりました。引き続き、廃棄物発生量の抑制、再資源化や新規リサイクル技術の開発および高付加価値化を通じて、最終埋立処分量の削減を進めていきます。

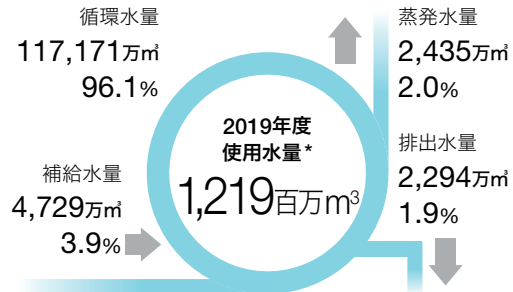
地球温暖化対策(生産工程におけるエネルギー使用量)

地球温暖化問題に対して、事業活動のあらゆる面で省エネルギーなどの合理化や研究開発を推進しています。

2019年度は、各事業所において、設備のインバーター化や高効率設備への更新、照明のLED化などの省エネルギー活動を実施しました。

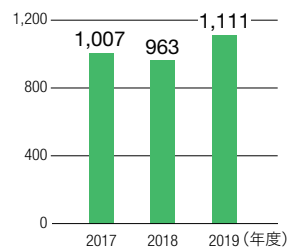
当社グループは、2019年度、グループ全体で196PJのエネルギーを使用しました(原油換算520万kL)。そのうち、約90%が鉄鋼事業部門、約6%がアルミ・銅事業部門で使用されています。

水のリサイクル状況((株)神戸製鋼所)

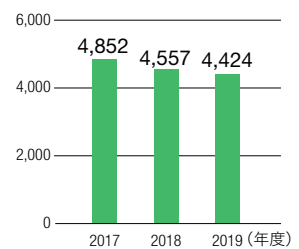


* 冷却用海水除く。

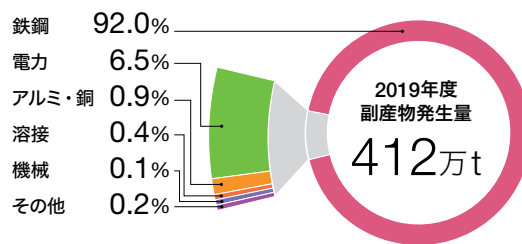
SO_x 排出量(国内グループ会社含む)
(千Nm³)



NO_x 排出量(国内グループ会社含む)
(千Nm³)



副産物発生量(国内グループ会社含む)

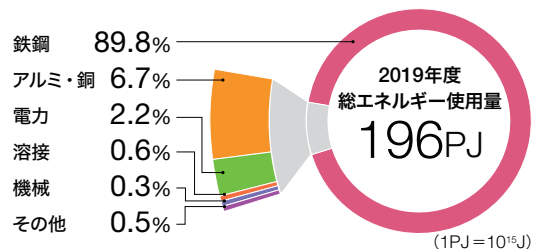


再資源化率*: 95.0%

* 再資源化率 = 再資源化量 / 処理対象量

* 比率は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値が一致していません。

エネルギー使用量(国内海外グループ会社含む)



* 比率は小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値が一致していません。

⇒ CO₂削減への取り組みについては P60~63 参照